九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Statins and the risks of stroke recurrence and death after ischemic stroke : The Fukuoka Stroke Registry

牧原, 典子

https://doi.org/10.15017/1441117

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏　　名：　牧原　典子

論文題名：　Statins and the risks of stroke recurrence and death after ischemic stroke: The Fukuoka Stroke Registry
（スタチンと脳梗塞後の再発および死亡に関する検討：
The Fukuoka Stroke Registry）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

これまでの研究から，スタチン治療が脳卒中の発症や再発を予防する効果があることが明らかとなっている．しかし，本邦での承認用量はこれらの先行研究で使用されたスタチンの用量よりもはるかに少なく，本邦の実臨床で用いられる用量のスタチンで同様に脳卒中の再発予防効果があるかどうかは不明である．そこで，本研究では日本人の初発脳梗塞患者コホートを用いて，実臨床で用いられる用量のスタチンが脳血管イベントやあらゆる原因による死亡のリスクを低下させるかどうかを検討した．2007 年 6 月から 2011 年 2 月までに福岡脳卒中データベース研究に登録された急性期初発脳梗塞患者 2822 例を対象に，退院時スタチン服用群（993 例）と非服用群（1829 例）に分類し，2012 年 3 月まで追跡した．追跡期間中（中央値 2.0 年），305 例が脳血管イベントを発症し，345 例が死亡した．4 年後の脳血管イベント累積発症率および累積死亡率は，スタチン服用群が非服用群よりも有意に低く（脳血管イベント：13.8%対 19.5%，P=0.005；死亡：11.8%対 21.7%，P<0.001），多変量調整後もスタチン治療は有意に脳血管イベント（ハザード比 0.70; 95%信頼区間 0.53-0.92, P=0.011），および死亡（ハザード比 0.67; 95%信頼区間 0.50-0.89, P=0.006）のリスクを低下させた．よって，日本人の急性期脳梗塞患者において，実臨床で用いられる用量のスタチンは脳血管イベントや死亡のリスクを低下させることが示唆された．